

JACCRO 短期海外派遣 学会参加報告 第 45 回 米国臨床腫瘍学会 (ASCO 2009)

癌研有明病院 消化器内科
石井 浩

胆道癌

英国の ABC02 試験 (Gem と Gem+CDDP のランダム化第 3 相試験) が公表され、Gem 単剤に対する CDDP の上乗せ効果が検証された。日本の BT22 試験でも ABC 試験と同様な成績が示されたことから、胆道癌の標準化学療法は Gem+プラチナに確定した。CDDP ではなくプラチナとされたのは、アメリカやフランスにおいて保険でカバーされるのが CDDP ではなくオキサリプラチンであるからという政治的理由との噂がある。また、英国では Gem が承認されておらず、日本では CDDP が承認されていないことから、標準レジメンが示されたものの実地診療ではいまだ世界中で使えないという、なんとも笑えない事態になっている。今さら製薬会社が CDDP の追加承認申請のための開発費をかけるわけがないことから、CDDP 承認に向けては学会その他から当局への陳情が行われる予定である。胆道学会、癌治療学会、臨床腫瘍学会、厚生労働省がん研究助成金奥坂班などから陳情書を提出すべく関係者が準備している。

膵癌

ESPAC3 試験が公表された。多くの予想に反し、膵癌切除後補助療法として CONCO 試験で標準に確立した Gem 化学療法は、ESPAC 試験のもうひとつのアームである 5FU/LV に対し全生存で優性を示すことができなかった。SAE の発生割合が Gem で有意に低率であったことから、標準治療は Gem で変更はないとの認識であった。5FU/LV に対する Gem の優位を検証するデザインであるため、スタディとしては失敗であるのだが、大規模試験であるため注目度が高かった。

胃癌

昨年の SPIRIT 試験、JCOG9912 試験により日本では標準薬剤となった S-1 の治療効果が、欧米で再現されなかった FLAGS 試験についてその解析が発表された。人種間差があるため、日本のエビデンスが世界に通用しないという事実は悲しいものがあった。

ToGA 試験が公表され、HER2 陽性胃癌に対するハーセプチンの効果が検証された。グローバルスタディであるが、日本から多数例の登録があり、愛知県立がんセンター中央病

院の澤木先生が共同演者でスライドにクレジットされた。うらやましかった。

大腸癌

ステージ II&III 切除後の補助 FOLFOX 療法に対するアバスチンの上乗せ効果検証目的の超巨大スタディが公表された。なにがなんでも僅差でも有意差をつけようとする企業の意味がありありと感じられる試験であったが、結果はネガティブであった。製薬会社の企業論理や学会の政治論理が感じられる発表であった。

プレナリーセッション

卵巣癌において、CA125 に基づく早期治療と遅延治療 (MRC OV05 & EORTC55955 試験) の比較が採択された。CA125 は卵巣癌の優れた腫瘍マーカーであるが、この推移に基づき治療開始する早期治療は延命効果がないばかりか ADR により QOL を損なうという驚くべき事実が発表された。大腸癌治療における CEA や膵癌治療における CA19-9 など、消化器領域でも実臨床で慣れ親しんだ考え方だけに、延命効果なく患者を苦しめるだけであったとの卵巣癌治療医からの報告は、誠に意義は深いものがある。

全体を通して

今回の ASCO は遺伝子情報を元にした癌の個別化治療がテーマであり、消化器癌、膵癌でも次第にその方法論が現実に近づいている実感がある。

新型インフルエンザの影響で日本人研究者は例年に比較し 2-3 割少なかったと思われる。結果的に本邦での対応 (大学病院などにおける渡航自粛) は騒ぎすぎであったと思う。

それにしてもアメリカ人は建物内の冷房をガンガンいれる。エコもくそもない。エネルギー垂れ流し、脂肪分摂りすぎ太りすぎ。日本はいい国だと思う。大切にしたい。